

ななサポ



Vol.29
2022年4月

越谷市市民活動支援センター機関紙



越谷市市民活動支援センターの愛称〈ななサポこしがや〉は、
●活動の拠点 ●交流の場 ●市民活動の相談 ●学習の支援
●情報収集と提供 ●文化の向上 ●観光・物産情報の提供

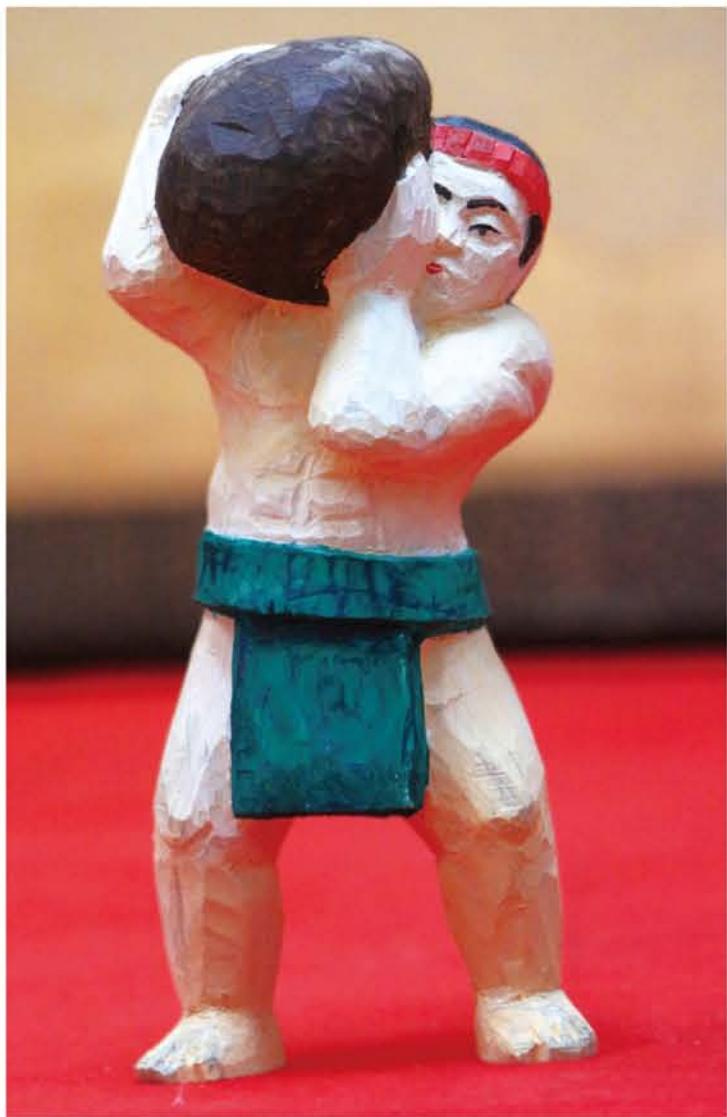
市民活動への7つのサポートを表しています

発行:越谷市市民活動支援センター 住所:埼玉県越谷市弥生町16-1越谷ツインシティBシティ4階、5階
URL: <http://koshigaya-activity-support.info/> Eメール:info@koshigaya-activity-support.info
市民活動支援センター/TEL 048-969-2750・FAX 048-969-2751 中央図書室/TEL 048-969-1800
利用時間:午前9時~午後9時30分(図書室 午前9時30分~)休所日:年末年始(図書室のみ休室日別途有)

越谷で、日本の「伝統・文化」にふれる

かつて日光街道の宿場町として発展し、栄えた越谷。〈だるま〉や〈ひな人形〉、〈籠染灯籠〉や〈都うちわ〉など、さまざまな手工芸品が今も受け継がれています。市内では甲冑めぐりや雛めぐりといったイベントも行われるので、親しみを持っている方も多いのではないでしょうか。

今号では、伝統が今なお息づく越谷で、「淨瑠璃×越谷の伝承」「いけ花×越谷」の活動をしている市民活動団体を紹介します。難しそうだな、と感じる方もいるかもしれません、そんなことはありません。新しいことを始めるのにぴったりなこの時期、「淨瑠璃」「いけ花」の世界にふれてみるのはいかがでしょうか。奥深い世界が、あなたの参加を待っています。



▲高安さんが自作された卯之助人形。表情まで細かく作られています。

高安さんがコロナ禍でも市内で活動できる場所を探していたときに安田さんと偶然出会い、そこからわずか2か

活動の始まり、 さまざまな淨瑠璃公演

月後には旧日光街道沿いにある「はかり屋」での公演が行われました。このときは子どもたちにも楽しんでもらえるよう、児童文学の『泣いた赤鬼』を上演。

◀2面へ続く

「とつつきにくいと思われがちな淨瑠璃」というものを、なじみのある話で皆さんに楽しんでもらい、地域の発展にもつなげたい」と話すのは【越ヶ谷宿で古典にふれよう会】の会長、高安勝三さん。高安さんは『竹本泉太夫』という芸名で国立劇場や歌舞伎座で現役で活躍している太夫です。

越谷の民話を基にした創作淨瑠璃を公演することで生の音を届けている同会。高安さんと副会長の安田恵三さんにお話を伺いました。

越ヶ谷宿で古典にふれよう会

用語

太夫

淨瑠璃

音曲語り物の総称

淨瑠璃の語り手

（名鏡国語辞典第3版）

2021年5月にはシェイクスピアの喜劇『ベニスの商人』を浄瑠璃風にアレンジした作品を演じました。

さらに同年10月には、古典のすばらしさをもっと多くの人に知つてもらうため、越谷大澤香取神社の集会所で越谷の民話『力持ち卯之助』を自作の紙芝居とともに語りました。古典に触れることを押しつけるのではなく、まずは皆さんに楽しんでもらいたいという気持ちで行ったこの公演は、夕方公演を追加するほど大盛況でした。

大人だけではなく、子どもにも楽しんでもらいたい



▲『力持ち卯之助』等を収録したDVD。越谷大澤香取神社での公演をお家で楽しむことができます。

典にふれよう会では、今年も公演を2回計画中。越谷にはまだたくさん

越ヶ谷宿で古きを楽しむ会では、今年も公演を2回計画中。越谷にはまだたくさん

楽しむことがあります。

（以上）

●公演案内

「じょうるりで楽しむぎょうだいさま」

日時:5月22日(日)13時、15時

場所:越谷大澤香取神社

内容:創作浄瑠璃「ぎょうだいさま」

古典義太夫「吉野山」他

料金:2,000円

問い合わせ・申込(先着順)

[TEL/FAX]

048-965-8536

080-3016-2255(竹本)

[MAIL]

joruri.koshigaya@gmail.com



いける楽しみと見る楽しみ

取材の日、自由花に取り組んでいた北条雄大さんは、猫柳に合うようにキヨウランを、その2つになじむようにキンギヨソウの、計3種をいけていました。

中学生の大野充嬉さん^{あき}は、学生の頃にいけ花と出会い、およそ50年になります。島田さんの「越谷でいけ花の稽古を続けていきたい」という熱い思いを受け、日本古流いけ花サークルで指導するようになつたそうです。

日本古流の顧問を務める高橋先生は、学生の頃にいけ花と出会い、およそ50年になります。島田さんの「越谷でいけ花の稽古を続けていきたい」という熱い思いを受け、日本古流いけ花サークルで指導するようになつたそうです。



◆家元顧問の高橋先生(右)
高校生の北条雄大さん(左)
北条さんは小学校1年生からいけ花を続けています。



きいちわ
吉川千恵子さん^{あき}
いけ花歴10年。本日の花材はハランです。



◆北条美和さん
いけ花を続けて20年。小さかったお子さんと一緒に稽古に参加していました。今は親子で共通の趣味になりました。



▲代表の島田喜美子さん

■お問い合わせ

島田 喜美子

☎:048-987-0775

FAX:048-987-0775

Eメール:ki227225@gmail.com

■今後の予定

令和4年4月16日(土)、17日(日)

こしがや能楽堂にて日本伝統文化の祭典「華の会」への参加予定

※新型コロナウィルス感染予防のため、変更となる場合があります。

■活動について

活動日:月1回 南越谷地区センター等



▲日本古流いけ花サークルの皆さん
【前列左から】北条一精さん・大野充嬉さん・吉川一春さん
【前列左から】北条一政さん・高橋一誠さん・島田一麗さん
(日本古流では、家元からお免状をもらった方の名前(花号)に「一」が入ります)

また、生花でハランをいけていた吉川さんは、いけ花で精神性を学ぶことが多いと言います。一步下がつて全体を見ていかされているのだとか。他の会員の皆さんも、真剣な表情で思い思いでいる姿がありました。

お花が好き、何か新しいことをしてみたいという方は、まずはこしがや能楽堂で開催される「華の会」に行つてみてはいかがでしょうか。そして、いけ花をやつてみたいと感じたら会の活動に参加してみませんか。「いけ花のことがわからなくても大丈夫。月に1回の活動なので無理なく始められますよ」と、サークルの皆さんも言っています。花たちと過ごす時間は、あなたの心と生活に安らぎを与えてくれるかもしれません。

越谷甲冑・ボトルアーマー

株式会社大越忠製作所で作られる越谷市伝統的工芸品「越谷甲冑」。金工・漆工・皮革工芸・組紐といった日本特有の技術を結集し、約5000の工程を経て完成します。



三代目大越忠保こと、大越保広さん



▲三代目大越忠保の大越保広さん。埼玉県『越谷甲冑』伝統工芸士、経済産業大臣指定伝統工芸士、内閣総理大臣賞など、受賞多数。

甲冑師名「大越忠保」の三代目を受け継ぐ大越保広さん。もともとは家業を継ぐつもりはなかつたそうですが、自分にしかできない仕事をやりたいと、甲冑の仕事に就くことを決意しました。大好きな祖母から家業を継いでほしいと望まれていたことも、心のどこかにあったと言います。

そこから父である一代目忠保こと弥太郎さんに師事し、甲冑の製作工程や1000以上ある部品の名称などを覚えていました。その後も甲冑師として技を磨き続け、現在は代表取締役も務めています。

「酒を護る武将」として海外からの旅行客に人気があります。製作のきっかけは、海外の市場を視野に入れ、日本酒の一升瓶に甲冑をかぶせて商品化してはどうかと、ある企業の方から提案されたことだそうです。提案者はいろいろな甲冑の製作者に声をかけたのですが、行く先々で「それを作ることができるのは忠さんだ」と言われたのだと。

試行錯誤を重ね、約1年をかけて完成したボトルアーマー。ところが、海外では一升瓶があまり流通しないことが判明し、甲冑を着せると銘柄のラベルが隠れてしまうという問題も見つかりました。そこで、海外の人にもなじみのあるワインボトルに着せる甲冑を「ミニボトル」タイプとして新たに作りました。

ボトルアーマーは、有名な武将の甲冑を模した全9種類。それぞれ魅力的ですが、海外の方には赤や金がたくさん使われているものが特に好まれているようです。この他にも、兜の部分のみを着せる「サムライボトル兜」、甲冑ブレスレット「武(ツワモノ)」、「甲冑時計(伊達政宗)」など次々と新しい商品を開発しています。保広さんの頭の中には、すでに次の構想が思い浮かんでいるそうです。完成し、紹介される日が待ち遠しいですね。



▲ボトルアーマー(左から、武田信玄、直江兼続、徳川家康、織田信長、伊達政宗、上杉謙信)。他に、加藤清正、源義経、真田幸村があります。お気に入りの日本酒やワインと一緒に記念として贈るなど、人気を集めています。



【お問い合わせ】株式会社大越忠製作所

住所:〒343-0805
埼玉県越谷市神明町1-39-2
TEL:048-962-1166/FAX:048-965-4889
HP:<https://tadayasu.co.jp/>
見学は(日曜日、祝日は除く)、要事前予約。
電話または、HPのお問い合わせフォームから→



▲後頭部から首を守るために鍛(しころ)と呼ばれる部位を、糸で上下に結び合わせる縫(おどし)という作業の様子。



▲職人の関根茂さんは、18歳の時に忠宝の甲冑を見た次の日から働き始め、以来49年間続けています。

中央図書室より所蔵本のご案内

本号の大きなテーマは「伝統」「文化」。これらに類する書物も難しいと思われがちですが、その世界にふれてみたいというあなたにピッタリの手に取りやすい本を紹介します。

切り花を2週間長もちさせる はじめての花との暮らし

谷川文江 著／出版社 家の光協会



部屋に花を飾るだけで、どこか心が温まる空間になりますね。しかし、いざ生け花やフラワーアレンジメントをはじめてみたいと一口に言っても、なかなか難しそうです。そこで、花とふれあう第一歩、切り花からはじめてみませんか。本書では、花の選び方や置く場所、切り方について、わかりやすく説明されています。

例えば、花が水の吸い上げに力を使いすぎてしまわないように、直射日光の当たる場所を避けることや、水の吸い上げを上昇させるために、茎を斜めに切ることなどが挙げられています。本書を参考に切り花を長もちさせて、花のある暮らしを手に入れてみましょう。

平安ガールフレンズ

酒井順子 著／出版社 KADOKAWA



日本の古典文学の著名な作品として、「源氏物語」や「枕草子」などの平安文学があります。本書は、平安文学の女流作家に焦点を合わせたエッセイです。古典文学と聞くと、どこか堅いイメージがありますが、親しみやすい表現で作家たちが描かれています。

著者の表現の一例として、紫式部と清少納言の、学校のテスト前の反応を紹介します。

「私、全然勉強していないの。どうしよう……」(中略)きっちりと良い点をとる

「私、今回マジで勉強してきた!自信ある!」

(本書 53ページより)

内に秘めるタイプが紫式部で、感情を出すタイプが清少納言です。対照的な性格の二人が今風の言葉で表現されています。千年前の世界を感じたら、ぜひとも原典にあたって、いにしえの作家たちと友達になってみてください。

「春の越谷だるまアート展」が開催されました

古くは疫病除けなどのおまじないとして、時が経つにつれ五穀豊穣、商売繁盛などの縁起物として親しまれてきました。色が白く、鼻がやや高い上品で優しい顔立ちが越谷だるまの特徴です。一般的な赤いだるまの他にも、小さな豆だるま五体を一組とした五色だるまなど、種類はさまざまです。

当機関紙の19号で紹介したハナブサデザイナーの花房氏が提案した新しい「だるまアート」と、越谷市立中央中学校の1年生が越谷だるまを使って製作した「だるまアート」およそ300体が、3/7～3/27まで、当施設内の越谷市展示コーナーで展示されました。



市民参加型広報テレビ番組

「Koshigaya Collection」に当センター登録団体が出演します!

越谷のヒトやモノをクローズアップし、「まだ知られていない越谷の魅力を集めて紹介する」をコンセプトにした、市民参加型広報テレビ番組「Koshigaya Collection」。機関紙ななさぽ28号で紹介した子育て支援チーム「つむぎて」が、この番組で紹介されます。

小児科医でもある代表と、看護師、助産師、保育士によって構成される同団体。子育て支援者と協働で講座やイベントを行い、地域全体の子育て支援力がより向上されることを目指して活動しています。詳しく知りたい方は、番組をチェックしてみてください。

放送詳細

〈テレビ埼玉〉4月16日(土)9:30～

〈J:COM〉4月18日(月)～24日(日)9:00～/17:30～

〈YouTube越谷市公式チャンネル〉4月16日(土)13:00～公開予定

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内容が変更となる場合がございます
問合せ:広報シティプロモーション課(☎048-963-9117)

